

下道恵子議員



● 災害時の避難所でのペットの扱いについて
● 永平寺町との観光連携について

そのほかの質問

- ・福井しあわせ元気国体に向けての準備について
- ・密集市街地火災対策について
- ・「鳥獣害のない里づくり推進事業補助金」の在り方について

一般質問

問 ペットは、飼い主にとつては、家族同様。昨年4月の熊本地震では、動物が苦手な人やアレルギーのある人への配慮で、段ボールで区切ったペット同伴専用スペースを設けたり、プレハブのペット専用預かり施設を避難所敷地内に開設したとのこと。そこで、市では、災害時、ペットを避難所に同伴してやることにしている、どのような対応をすることになっているのか伺う。

答 勝山市の避難所開設・運営マニュアルでは、ペットの飼育場所を、避難スペースからある程度離れた場所の建物外で風雨をしのげる場所等に設置することとしている。ただし、盲導犬等の介助犬は例外としている。また、飼い主は、避難所を管理する責任者に「ペット飼育者名簿」を提出し、ペットを連れてくる。ペットのえさ、移動用の檻などの用意などの飼育・管理は、飼い主が全責任を負うこととしている。

問 今年2月に永平寺町議会と勝山市議会間で、お互いに連携して、今後につなげるため第1回目の意見交換会を開いた。例えば、えちぜん鉄道勝山駅から観光バスに乗り、「平泉寺」見物後「花月楼」にて昼食。「恐竜博物館」から「永平寺参拝」して永平寺で宿泊翌日は「座禅体験」をして福井駅までというような周遊観光バスを永平寺町と連携して行うことができないか。

答 現在、大野市を含めた3市町を一つの観光推進エリアとして、周遊・滞在型観光推進事業の準備を進めている。すでに「永平寺大野道路」開通記念キャンペーンなどの広域観光において、協同でPR事業を実施している。

問 提案の周遊観光バスについて、現在、勝山市観光まちづくり株式会社を検討している市内や周辺自治体との着地型ツアーの中での実施を協議していく。

近藤栄紀議員



● 人口減少問題について
● 20年ぶりに公開された経ヶ岳の経筒について
● 獣害対策について

一般質問

問 県内の推計人口が41年ぶりに78万人を下回り、勝山市は推計人口、世帯数ともに減少しているが、どのような対策を実施するのか。特に結婚の支援をどのように実施していくのか。

答 社会増対策と自然増対策のふたつを並行して取り組んでいる。結婚支援策として、若者の出会いの場の創出や結婚相談支援事業の充実を図っている。また、子育て政策として、出産連携による「ここに妊婦奨励金」、保育料の軽減など、積極的に取り組んでいる。結婚支援については、スポーツ体験や料理教室などを男女で共同作業を行い、交流を深めてもらう交流型体験イベントは、たいへん好評で、今年度も引き続き開催を予定している。イベント終了後も、参加者同士との後の交際状況を聞くなど、交際が継続されるよう支援を続けている。

問 勝山、大野両市にまたがる経ヶ岳山頂で発見された経筒が永平寺町に

保管されていた経緯と、今後、勝山市へ帰属すべきと思うが市の考えを問う。

答 勝山市が所有権を主張しているが、大野市も発見場所が市境にあたるため所有権を主張している。帰属先が決まるまでは発見者が届け出た永平寺町で保管することになっている。

問 他県では、高齢化や、担い手不足でハンターが減っていることを背景にその対策として、ドローンによる生息状況の把握、GPSをサルに取り付け群れを監視するといった取り組みが行われているが、勝山市でも導入を検討してはどうか。

答 ドローン等を活用した野生動物の生息調査、研究だが、福井県内各自治体で、そのような調査、研究を行っているとの情報は得ていないが、今後、国や県を通じてそのような調査、研究を行っている自治体の情報入手し、その有効性等を十分に検証していく中で、勝山市においても導入できるか検討していきたい。